



情報誌

FAR

48 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

FAR 会は生涯現役の場

会長 川上壽昭



先ごろ、日本老年学会・日本老年医学会が「高齢者」として定義される年齢の引き上げを提案したことをご記憶されている方も多いと思います。「高齢者」の基準を 75 歳以上とし、65 歳～74 歳は「准高齢者」とするという提言です。医療の進歩により高齢になっても元気な人が増えたことが背景にもありますが、一方で社会保障が削減されるのではという危機感を抱く声も相次いでいます。同学会の発表資料によりますと、高齢者の心身の健康についての様々なデータから、10～20 年前と比較して、加齢に伴う身体機能の変化の出現が 5～10 年遅れていること

が明らかになったという「人生の老後がどんどん長くなり、高齢者の健康状態や筋力などがこの 10 年間でかなり改善した。内閣府の 26 年の世論調査結果をみても、高齢者だと思ふ年齢は『70 歳以上』が圧倒的だ。高齢化社会の中で、主観的な高齢者年齢が上がり、客観的に能力も上がってきているのに、年齢で一律に人を管理する制度が今の時代に合っていない。何時でも学べて、何時でも働ける出入り自由な社会がいい」という理論だそうです。これは、「生涯現役」で働き続けなさいという政策的な意図が働かねばよいがと危惧しています。確かに「生涯現役」を実践する時に、信頼できる仲間が居るといえないとでは効率の面で格段に差が生じます。自分の人生の目標に客観的な評価を示してくれる人がいるということは、本当に有難いものです。世の中に役立つことが実感できると、行動に対する励まし、エールも受けられるようになります。成果を挙げるためのアドバイスや思わぬ支援を得ることもあります。活動の輪を次々に広げていく際に協力してくれる方も増えてきます。これまでの人生で築き上げてきた仲間は、このために居るといっても過言ではありません。改めて FAR 会発足の経緯を振り返ってみましょう。JSRT の運営、維持、発展に貢献された方々が定年退職され、職場を離れるに従って情報も乏しくなり、また現役時代に親しかった方々とも疎遠になりがちとなり、何とか情報交換の場、懇親の機会を作れないかという声に併せて、JSRT の OB 会として発足しています。そして、その目的は①「OB 同士が楽しいことを一緒に共有できる場であること」、②「現役生のパートナーの場であること」、③「OB 会を通じて多くの人との触れ合いの場になること」であり、「生涯現役」を実践する場そのものだろうと思っております。

今秋 10 月 19 日（木）～21 日（土）には、上田克彦大会長、隅田博臣実行委員長のお世話で第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会が広島市で開催されます。これを機に FAR 会では厳島神社、原爆ドームなど名所旧跡を散策する一泊二日の楽しい旅を計画しております。お一人でも多くの方にご参加を頂き「生涯現役」を実践できる場にして頂ければ幸いと存じます。

内 容

- | | | |
|-----------------------|----------------------|------|
| 1. ごあいさつ | 会 長 | 川上壽昭 |
| 2. 2017 年 FAR 懇親の夕べ報告 | 代表幹事 | 平野浩志 |
| 3. 2017 年 秋の FAR 会案内 | 代表幹事 | 川上壽昭 |
| 4. 平成 28 年度事業報告 | | |
| 5. 平成 29 年度事業計画 | | |
| 6. 会からのお知らせ | | |
| 7. JSRT 情報 | | |
| 8. 連載《ご当地自慢》 | | |
| | 名古屋の「ご当地自慢」(マイナーな自慢) | |
| | 名古屋市 | 本間龍夫 |
| 9. 編集の小窓 | | |

《2017 年 懇親の夕べ》 報告

代表幹事 平野浩志

FAR 会 2017 懇親の夕べにご参加を頂きました皆様ありがとうございました。

今年の JRC2017 は、開催期間中晴天に恵まれ、みなとみらい、馬車道の桜が満開で大会が始まり、桜の花吹雪で閉会となり、桜の花が添えられた盛会裡の大会でした。

会期中の 4 月 15 日(土)みなとみらい線の馬車道駅に近い、馬車道十番館に総勢 30 名の参加を頂き『2017 懇親の夕べ』を開催しました。宴を始めるにあたり、会長の川上壽昭先生にご挨拶を頂き、最初の乾杯を名誉会員の筒井様にお渡しし和やかに宴がスタートしました。丁度喉の渇きが潤ったころ、第 73 回総会学術大会の宮地大会長、松原実行委員長がご挨拶にお見えになり、お礼の言葉を述べられました。FAR 会の皆さんで大会の成功を祈念してのエールを送りました。その後理事会に出席されていた小倉様、錦様、船橋様がお見えになりましたので、小倉様に 2 回目の乾杯をお願いしました。小倉様から、平成 29・30 年度の代表理事にご就任された報告と、代表理事 2 期目の決意が述べられました。料理も進む中でやっと、事務局の方々が到着され、参加者全員が集まったところで、仕切り直しの乾杯を宮高事務局長をお願いしました。前菜、スープ、パン、魚と味わいながら、昭和を感じさせるムードの中、楽しい歓談に花が咲き、筒井様から頂きました一升瓶の甲州ワインもすべて飲み干しました。とても爽やかな白ワインで、大変好評でした。「筒井様ありがとうございました。」

皆さんが和んだところで、宮高事務局長から、事務局の新メンバーになった仲井さんの紹介がありました。頃合いもよくお肉料理が出ましたが、焼いてから時間が経ったのかかなり硬かった気がします。その後美味しい苺とアイスのデザート、コーヒーを頂きました。

お開きの時間が近づいたところで、来年の『2018 懇親の夕べ』の代表幹事の江島先生に突然の振りでしたが、「準備を始めたところですのでご期待ください、来年お待ちしております」と一言頂き、錦先生から来年(第 74 回大会)の大会長をされるご報告と大会テーマのご紹介を頂きました。

締めのご挨拶は、FAR 会副会長の速水先生にお渡しし、乾杯を 3 回もする会は初めてだとジョーク交じりに皆さんと楽しい時間を過ごせたとお話し頂き、『ご参加の皆様の健康を祈念して』の 1 本締めで締めて頂きました。最後に 30 名の集合写真を 3 台のカメラで 2 枚ずつ計 6 回の撮影をして、2017 懇親の夕べを締めくくることが出来ました。

いたらぬ代表幹事でしたが、皆様に暖かなお言葉をかけていただきありがとうございました。昭和を感じさせる落ち着いた雰囲気の中での、楽しい歓談とフレンチのフルコースでしたが、お肉の味だけが心残りです申し訳ありませんでした。しかし皆様の飲みっぷりは衰えていないことを実感し嬉しく感じました。

秋の広島で皆様と再会できます事、楽しみにさせていただきます。健康第一、お身体ご自愛ください。

雑学：「ヨヨヨイ、ヨヨヨイ、ヨヨヨイ、ヨイ」と手拍子を 10 回打つのが 3 本締め、これは、手拍子九回に一回加えて、丸にする。会を丸く締めくくるという意味が籠っているそうです。ちなみに「イヨーオ」ポンと手拍子を打つのを 1 丁締め(関東 1 本締め)と言うそうです。



《2017 秋のFAR会》案内

「2017 広島・宮島を巡る旅」のご案内

代表幹事 川上壽昭

平成 29 年 10 月 19 日（木）～21 日（土）の 3 日間、上田克彦大会長、隅田博臣実行委員長のお世話で第 45 回秋季学術大会が広島市で開催されます。

これを機に FAR 会では厳島神社、原爆ドームなど名所旧跡を散策する一泊二日の楽しい旅を計画しております。お一人でも多くの方にご参加を頂き「生涯現役」を實踐できる場にして頂ければ幸いと存じます。

旅の詳細は下記の「旅行の詳細」をご覧ください。

旅行日程

1. 平成 29 年 10 月 21 日（土）～1 泊 2 日
2. 会費 3 万円

ご家族の参加も歓迎

☆旅行の詳細☆

宮島へは船旅

広島市内から宮島へは「水の都」として親しまれる広島の川を走るひろしまリバークルーズで宮島までは船の旅です。

広島の川を走るひろしまリバークルーズは、広島県にある 2 つの世界遺産「原爆ドーム」と「厳島神社」のある宮島を結ぶ世界遺産航路です。平和記念公園を流れる元安川から本川を下り、瀬戸内海の穏やかな海を走る。船内からの眺めは、違った角度から広島を楽しめます。



厳島神社

日本三景の一つとして名高い、安芸の宮島。象徴ともいえる朱の回廊も美しい厳島神社。厳島神社は海を敷地とした大胆で独創的な配置構成、平安時代の寝殿造りの粋を極めた建築美で知られる日本屈指の名社です。廻廊で結ばれた朱塗りの社殿は、潮が満ちてくるとあたかも海に浮かんでいるよう。背後の弥山の緑や瀬戸の海の青とのコントラストはまるで竜宮城



を思わせる美しさです。

創建は推古天皇即位の年とされています。平清盛が深く崇敬し現在の姿がほぼ完成したのは平安時代。本殿をはじめ社殿は国宝および国の重要文化財に指定されており 1996 年には世界文化遺産に登録されました。

広島城

1589 年（天正 17）に毛利輝元が築城した城。鯉城〔りじょう〕とも呼ばれます。かつて国宝に指定されていた天守閣は、原爆投下によって倒壊。現在の 5 層天守閣は 1958 年（昭和 33）の再建で、内部は武具の展示や城下町広島を学べる歴史博物館になっています。



原爆ドーム

1915 年、ヨーロッパの先端的建築スタイルを取り入れ設計された旧広島県産業奨励館。1945 年 8 月 6 日の原爆投下で一瞬にして廃墟と化しました。ヒロシマの悲劇を語る代表的な建造物として被爆時のままの永久保存が決定され、保存工事を経て 1996 年、世界遺産に登録されました。



平和記念公園

恒久平和を実現しようとする理想の象徴として建設された公園です。緑多い園内には、中心に位置する原爆慰霊碑をはじめ、原爆の子の像、嵐の中の母子像など、数多くの碑が点在しています。これらのモニュメントには、世界の平和と亡くなった人々の安らかな眠りを祈って、折り鶴や四季の花が絶えることなく手向けられています。



縮景園

縮景園は、広島藩主浅野長晟（ながあきら）が、元和（げんな）6 年（1620）から別邸の庭園として築成されたもので、作庭者は茶人として知られる家老の上田宗箇です。

園の名称は、幾多の景勝を聚め縮めて表現したことによるが、中国杭州の西湖を模して縮景したとも伝えられている。園の中央に濯纓池（たくえいち）を掘って大小 10 余の島を浮かべ、周囲に山を築き、溪谷、橋、茶室、四阿（あずまや）などが巧妙に配置され、それをつなぐ園路によって回遊できるようになっています。この種の庭園は、回遊式庭園と称され、室町時代にその萌芽（ほうが）がみられ、江戸時代初期に最盛期を迎えた形式で諸大名の大庭園の多くはこれに属します。

池の中央にかけられた跨虹橋（こうきょう）は、七代藩主重晟（しげあきら）が京都の名工に二度も築きなおさせたものといわれ、東京小石川後樂園の円月橋や京都修学院離宮の千歳橋にも似た大胆奇抜な手法が駆使されています。



旅程表

10/21 (土) 宮島へ

広島国際会議場 13:00 == リバークルーズ (世界遺産航路) 13:30~14:00 ==

宮島・宮島散策・旅館 16:00 頃

【宮島の宿舎】 ホテルみや離宮 広島県廿日市市宮島町 849 ☎0829-44-2111

10/22 (土) 広島城平和記念公園と原爆ドームなどの観光

旅館 9:00 == 宮島 9:10~宮島口 9:20 == 広島城 10:00~11:00 ==

平和記念公園と原爆ドーム 11:10~12:30 == 昼食 12:40~13:40 == 縮景園 13:50~14:50 ==

広島駅 15:05 解散

(文責 2017 広島・宮島を巡る旅 世話人 神澤良明)

《会からのお知らせ》

「1」平成 29 年度 第 1 回世話人会議報告

平成 29 年 4 月 15 日、パシフィコ横浜会議センター会議室(横浜市)において、川上壽昭会長
以下 24 名が出席し、以下の議題について討議・審議した。

1. 平成 29 年度よりの役員の指名

世話人改選後の最初の世話人会議のため、規約第 9 条第 4 項ならびに、6 項の定めに基づき、会長
より下記の役職を指名した。

- ・副会長：速水昭雄、平林久枝、藤田 透、山 哲男 ・会計監査：前田幸一
- ・庶務・会計：宮高 睦 ・各委員長：編集委員長 森 克彦、総務委員長 山 哲男
- ・顧問：小川敬壽、前越 久、山田和美

2. 会務報告

1) 会員動向

会員数(平成 29 年 3 月末現在)：96 名 (内、名誉会員：8 名)

平成 28 年度中の

- ・新入会員：2 名 松原 馨 (東京都狛江市、平成 28 年 4 月 19 日付け)
村上長善 (大阪府吹田市、平成 29 年 1 月 15 日付け)
- ・退 会 者：4 名・自己退会：金尾啓右 (平成 28 年 6 月 1 日付け)
・死亡退会：橋本 宏 (平成 28 年 5 月 14 日逝去)
石原 浩 (平成 28 年 8 月 16 日逝去)
四宮恵次 (平成 28 年 10 月 5 日逝去)

2) 事務局報告 (業務報告および収支決算書)

事務局長より資料を基に報告した。

3) 情報誌発送作業ならびに HP の更新作業について

事務局の全面的協力の下、第 45 号、第 46 号、第 47 号の発送作業を夫々行った。また HP の更
新箇所を事務局に指示し、各々最新の情報に更新した。

4) 第 2 回運営委員会メール会議報告

平成 28 年 2 月 6 日~15 日にかけてメールを用いた会議を行い、(1)規約の一部改正、(2)情報
誌通巻 50 号記念誌発行に伴う予算処置、(3)平成 29 年度事業計画(案)および、収支予算(案)に
関して検討を行い、以下の通りとして、平成 29 年度第 1 回世話人会議に提案する事とした。

- (1) 現行規約第 9 条第 6 項を「世話人会の承認をえて名誉会長ならびに、顧問をおくことがで
きる。」(下線部分の字句の追加)
- (2) 第 50 号記念誌発行に伴う経費として 7 万円乃至 8 万円を予算化する
- (3) 情報誌通巻第 50 号記念誌を発行する事を含めて、その他は例年通りの事業内容として
計画案を策定する。

3. 平成 28 年度事業報告

1) 会員動向 会員数：96 名 内、名誉会員：8 名（平成 29 年 3 月末現在）

平成 28 年度中の新入会者、退会者は以下の通りである。

- ・新入会者：2 名（松原 馨、村上長善）
- ・死亡退会者：橋本 宏(2016/5/14 逝去)、石原 浩(2016/8/16 逝去)、
四宮恵次(2016/10/5 逝去)
- ・自己退会者：1 名（金尾啓右、2016/6/1 付け）

2) 学術大会（春・秋）に合わせた親睦・交流事業の推進

(1) 第 72 回総会学術大会時の企画「2016 懇親の夕べ」

平成 28 年 4 月 16 日横 浜市・「聘珍楼」で開催、36 名参加した。（非会員 5 名を含む）

(2) 第 43 回秋季学術大会時の企画「2016 日光を巡る旅」

平成 28 年 10 月 15 日(土)～16 日(日)、宿泊地；ホテル春茂登(懇親会会場)、(日光市)
参加者：14 名で開催した。

3) 情報誌の発行

第 45 号を平成 28 年 5 月 15 日、第 46 号を平成 28 年 9 月 15 日、第 47 号を平成 29 年 1 月 15 日に夫々発行した。

4) 役員会、運営委員会と総務委員会の合同委員会開催

世話人会議を平成 28 年 4 月（横浜市）、10 月（さいたま市）に開催し、運営・総務合同委員会
平成 28 年 8 月（京都市）、第 2 回運営委員会メール会議を平成 29 年 2 月に開催した。

5) その他、広報関係

FAR 会ホームページを情報誌発行時および適宜更新するとともに、メーリングリストを通じ情報交換に努めた。

【平成 28 年度収支決算書報告】 平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前 年 度 繰 越	817,614	817,614	
年 度 会 費	178,000	180,000	90 名分
新 入 会 分	100,000	0	
寄 付 金	50,000	31,000	
広 告 料	0	0	
懇 親 会 費	934,000	677,000	2016 年懇親の夕べ（会員 33 名、非会員 3 名）、2016 日光を巡る旅（会員 14 名）
雑収入（利子等）	20,000	6,064	利息（4/1）、垣鏑（名誉会員）28 年度会費分、奥村 27 年度分会費、小口 27 年度会費、利息（10/1）
小 計	1,282,000	894,064	
預かり金収入	200,000	206,000	松原（28-32）、四宮（27）、小口（27-31）、清水（28-32）、山（28-32）、川上（28-32）、萩原（康）（28-32）、三代（28-32）、藤田（透）（28-32）、丸山（28-30）、橋本（廣）（28-32）、友光（28-32）、山本（義）（28-32）、鹿沼（28）、土井（28-32）、森（克）（28-32）、平林（28-32）、石井（28-32）、本間（28-32）、山田（和）（28-32）、稲津（28-32）、山田（勝）（28-32）、柴田（崇）（28-30）、神澤（28-32）、倉西（28-30）、平野（28-32）、齋藤（一）（28）、今井（28-32）、花山（28-30）、金尾（28）、野原（28、29）、村上（28-30）、奥村（28）、雄川（33-37）

(次年度以降分)		138,000	
合 計	2,299,614	2,055,678	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
情報誌作成費	40,000	30,000	45号、46号、47号
懇親会経費	1,090,000	816,217	CD(50枚)、2016年懇親の夕べ36名、2016日光を巡る旅(会員14名、写真DVD代含む)
会 議 費	60,000	50,340	第1回世話会昼食代(16名分)、第1回運営・総務合同委員会(8名分)、第2回世話会昼食代(15名分)
運 営 旅 費	100,000	77,110	第1回運営・総務合同委旅費(5名)、第1回運営・総務合同委旅費(1名)、第1回運営・総務合同委旅費(1名)
通 信 郵 送 費	70,000	66,607	メーリングリスト年会費、はがき(110枚)、角2封筒(100枚)、情報誌45号送料、弔電料金(橋本)、角2封筒(100枚)、情報誌46号送料、現金書留送料、角2封筒(100枚)、はがき(92枚)、情報誌47号送料
事務用品費	20,000	3,810	情報誌45号コピー用紙代(A3,A4)、ホッチキス、情報誌46号コピー用紙代(A3)、140円切手20枚、角2封筒100枚、情報誌47号コピー用紙代(A3)
新規事業費	10,000	0	
雑 費	5,000	30,202	払込取扱票(100枚)印字サービス料、供花(四宮家)
(払込手数料等)		3,130	会費振込手数料
小 計	1,395,000	1,077,416	
預かり金支出	200,000	206,000	前年度受取
(次年度以降分)		138,000	今年度受取
次年度繰越	614,614	634,262	
合 計	2,299,614	2,055,678	

3月末

通常郵便貯金	634,768	527,692	記号番号 14480-30475391
振替貯金	430,660	431,328	口座番号 00920-9-179576
手持ち現金	6,186	19,242	
合 計	1,071,614	978,262	

尚、次年度繰越金が年々減少傾向にあり、このまま減少していくと貯金がなくなり、現在の活動が出来なくなる可能性があり何らかの手段を講ずる必要がある。と事務局長より提示があった。

《参考資料》平成25年度から平成28年度の次年度繰越金

年 度	次年度繰越金	年 度	次年度繰越金
平成25年度	883,000円	平成27年度	817,614円
平成26年度	853,462円	平成28年度	634,262円

【会計監査報告】

監査報告書を基に、山田和美会計監査(平成28年度までの会計監査役)より報告した。

FAR 会
会長 川上 壽昭 殿

平成 28 年度 (2016) 会計監査報告

- 1、平成 28 年度収支決算書
- 2、平成 28 年度事業報告
- 3、郵便貯金通帳・振替口座引き落とし証明表
- 4、現金出納簿および領収書
- 5、郵便貯金総合通帳
- 6、FAR 会 会費納入台帳
- 7、平成 29 年度収支予算 (案)

平成 29 年 3 月末日までに送付された上記資料のコピーに基づき会計監査を行い、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

平成 29 年 4 月 15 日

FAR 会 会計監査 山田 和美 

4. 平成 29 年度事業計画 (案)・収支予算 (案) の提案

平成 29 年度事業計画 (案)・収支予算 (案) を審議するにあたり、事務局より提示のあった繰越金減少の解決策を種々検討の結果、今後懇親活動参加者に行っていた補助金をなくす事とし、平成 29 年度秋より実施する事とした。

【平成 29 年度事業計画】

1. 学術大会 (春・秋) に合わせて親睦・交流事業推進

1) 第 73 回総会学術大会時に「2017 懇親の夕べ」を開催する。

- ・日 時：4 月 15 日 (土)、開催場所：横浜市「馬車道十番館」代表幹事：平野浩志
- ・会 費：9 千円 (会員)、1 万円 (非会員)

2) 第 45 回秋季学術大会時に「2017 広島・宮島を巡る旅」を開催する。

- ・日 時：平成 29 年 10 月 21 日 (土)・22 日 (日) (一泊二日の予定)
- ・宿泊地：ホテルみや離宮 (広島県廿日市市宮島町 849)
- ・参加費：30,000 円
- ・申込み方法：情報誌第 48 号同封葉書 (尚、郵便料金が 6 月より値上がりするが、新料金の葉書を同封する)
- ・申込締め切り：平成 29 年 8 月 10 日必着

2. 情報誌関係

(1) 情報誌第 50 号記念誌の発行

平成 30 年 1 月 15 日発行予定の情報誌は通巻 50 号となる。そのため、総頁 60 頁の第 50 号記念誌を、「FAR 会設立 10 周年記念誌 (平成 23 年 10 月発行)」と同様の装丁で発行する。

(2) 情報誌第 48 号 (平成 29 年 5 月 15 日)、第 49 号 (平成 29 年 9 月 15 日)、第 50 号記念誌 (平成 30 年 1 月 15 日) の発行。

3. 会員相互に共通する情報交換を JSRT と連動したホームページならびにメーリングリストを用いての活動を推進するとともに、新入会員の加入に努める。

4. 世話人会議・運営委員会の開催

- (1) 世話人会議を平成 29 年 4 月 (横浜市) で開催、平成 29 年 10 月 (広島市) で開催予定。
- (2) 運営委員会を平成 29 年 4 月 (横浜市) で開催、平成 30 年 1 月 (京都市) で開催予定。

【平成 29 年度収支予算】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	前年度予算額	予 算 額	備 考
前 年 度 繰 越	817,614	634,262	
年 度 会 費	178,000	176,000	名誉会員 8 名を除く 88 名を見込
新 入 会 分	10,000	10,000	5 名
寄 付 金	50,000	30,000	前年並を見込む
広 告 料	0	0	
懇 親 会 費	934,000	1,113,000	懇親会の夕べ (27 人×9,000 円 3 人×10,000 円)、広島・宮島を巡る旅 (28 名×30,000 円)
雑収入 (利子等)	20,000	10,000	利子等
合 計	2,009,614	1,973,262	

支出の部

科 目	前年度予算額	予 算 額	備 考
情報誌作成費	40,000	40,000	情報誌 48, 49, 50 号編集諸掛
懇 親 会 経 費	1,090,000	1,140,000	懇親会の夕べ (30 人×10,000 円) 広島・宮島を巡る旅 (28 名×30,000 円)
会 議 費	60,000	50,000	前年度並み
運 営 旅 費	100,000	110,000	運営・総務合同委員会
通 信 郵 送 費	70,000	90,000	情報誌郵送費他
事 務 用 品 費	20,000	40,000	情報誌等のコピー用紙他
新 規 事 業 費	10,000	10,000	
雑 費	5,000	20,000	
(払込手数料等)		10,000	振込手数料
次 年 度 繰 越	614,614	463,262	
合 計	2,009,614	1,973,262	

5. 規約の一部改訂について

規約第 9 条第 6 項を下記の通り一部改訂する事提案し、提案通り改訂する事とした。

「この会に、世話人会の承認を得て名誉会長ならびに、顧問をおくことができる。」

6. 名誉会長推戴の提案

川上会長より、山田勝彦前会長を本会の名誉会長に推戴する提案があり、満場一致で承認した。

7. 編集委員会関係

1) 情報誌通巻第 50 号記念誌の発行についての企画を以下の通り提案し了承した。

- ・発行年月日：平成 30 年 1 月 15 日 (予定)
- ・総頁数：60 頁 (A4 版、簡易表紙付き製本版)
- ・内容：1. 会長挨拶。2 副会長による「私の情報誌」「50 号の歩み」「情報誌への期待」
3. 世話人による「私の情報誌」。4. 「歴史探訪」(仮題)。等々

2) 情報誌第 48 号(2017/5/15 発行)、第 49 号(2017/9/15 発行)、第 50 号記念誌(2018/1/15 発行)を各々発行する。

3) 巻頭言執筆者予定(48 号～59 号：川上壽昭・藤田 透、川上壽昭、川上壽昭、山 哲男、速水昭雄、川上壽昭、平林久枝、藤田 透、川上壽昭、山 哲男、速水昭雄)

8. 懇親活動関係

1) 「2017 広島・宮島を巡る旅」企画

(第 45 回秋季学術大会 平成 29 年(2017 年)10 月 19 日～21 日、広島国際会議場、
大会長：上田克彦)

・代表幹事：川上壽昭

・日 時：平成 29 年 10 月 21 日(土)～22 日(日)

・行 程：10 月 21 日(土)

13:00 広島国際会議場よりリパークルーズ船で ➡ 14:00 宮島着・宮島散策 ➡
➡ 16:00 ホテルみや離宮(宿泊・懇親会会場)

10 月 22 日(日)

9:00 ホテル出発 ➡ 9:20 宮島口 ➡ 10:00 広島城 ➡ 11:10 平和記念公園と
原爆ドーム ➡ 12:40 昼食 ➡ 13:50 縮景園 ➡ 15:05 広島駅解散

・宿泊地：ホテルみや離宮(広島県廿日志市宮島町 849)

・会 費：¥30,000

・申込み方法：情報誌第 48 号同封葉書

・申込み締切日：平成 29 年 8 月 10 日

2) 「2018 懇親の夕べ」企画案について

(第 74 回総会学術大会 平成 30 年(2018 年)4 月 12 日～15(日)、パシフィコ横浜、
大会長：錦 成郎)

・代表幹事：江島光弘

・日 時：平成 30 年 4 月 14 日(土)

・その他、会場等具体的内容は第 2 回世話人会議に提案する事とした。

3) 「2018 懇親旅行」(〇〇への旅)代表幹事の選任

(第 46 回秋季学術大会 平成 30 年(2018 年)10 月 4 日(木)～6 日(土)、仙台国際センター、
大会長：千田浩一)

・代表幹事：梁川 功

・日時：平成 30 年(2018 年)10 月 6 日(土)～7 日(日)

・その他、会場等具体的内容は第 2 回世話人会議に提案する事とした。

4) 「2017 懇親の夕べ」最終確認

・代表幹事：平野浩志

・日時：平成 29 年 4 月 15 日 18:30 ～

・会場：馬車道十番館(横浜市中区常盤町 5-67)

・会費：9 千円(会員・会員家族)、1 万円(非会員)

・参加者数：30 名(会員：22 名、会員家族：1 名、JSRT 事務局員：4 名、非会員：3 名)で行う事
とした。

8. その他

1) 会議関係

(1) 平成 29 年度第 2 回世話人会議

日時：平成 29 年(2017 年)10 月 21 日(土) 午前 11 時～午後 13 時(予定)

場所：広島国際会議場(予定)

(2) 平成 29 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 29 年 4 月 15 日 第 1 回世話人会議終了後

場所：パシフィコ横浜会議センター 512 会議室

議題：編集委員会ならびに総務委員会委員選任・承認他

(3) 平成 29 年度第 2 回運営委員会・総務委員会合同委員会

日時：平成 30 年 1 月(予定)、 場所：京都市内(予定)

「2」平成29年度第1回運営委員会報告

平成29年4月14日、パシフィコ横浜会議センター会議室において、川上壽昭以下8名が出席し、以下の議題について討議・審議した。

1. FAR 会運営細則-1 3.1の規定に則り、編集委員長、総務委員長より各々の委員ならびに、担当が提案され、夫々承認した。

(1)編集委員会

森 克彦（長）、石井 勉（副）、橋本廣信、江島光弘、山田和美（顧問）

(2)総務委員会

山 哲男（長）、神澤良明（副、兼懇親会担当）、藤田 透（懇親会担当）、
小水 満（懇親会担当）、草山泰子（広報担当）、漢那憲聖、清水久子

2. その他

- 1) FAR 会ホームページの「役員構成」の表示について

現在の表示には「顧問」の表示が抜けており、今後は名誉会長、顧問も表示する事とした。

- 2) 第2回運営委員会・総務委員会との合同委員会

日時：平成30年1月（予定）、 場所：JSRT 事務局会議室（予定）

《会員動向》

- ・会員数：94名（平成29年4月24日現在）
- ・退会者：2名（会費未納による退会者）

《新入会員紹介》

（「写真」ならびに、「近況」「趣味」の記述内容は入会申込書に記載されたものです。）

村上長善（大阪府吹田市、平成29年1月15日付け入会）



（近況）ウォーキング目標日々8千歩以上、風雨問わず実行。
最近歩速ダウン、女性の方にもすいすい追い越される。
後期高齢者にて限界かな。ファイト・ファイト。
（趣味）温泉旅行・盆栽（雑木を含む）家庭菜園・園芸等々。

《JSRT 情報》

『第45回秋季学術大会』 大会テーマ：— 医療安全を科学する —

大会長：上田 克彦（京都大学医学部附属病院）

会 期：平成29年10月19日（木）～21日（土）

会 場：広島国際会議場

『第74回総会学術大会』 大会テーマ：夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学

Innovative Science and Humanism in Radiology

大会長：錦 成郎（天理よろづ相談所病院）

会 期：平成30年4月12日（木）～15日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

《連載》ご当地自慢

名古屋の「ご当地自慢」（マイナーな自慢）

名古屋市 本間龍夫



FAR 会会員の皆様今年度から「世話人の会」に参加いたしますから、今まで以上に皆様と接する機会が増えそうです。宜しくお願いいたします。

少し前の FAR 会の会誌に前越先生が王道の名古屋紹介「名古屋の巻Ⅰ、Ⅱ」を投稿していますから、私は「少し違った面からの名古屋自慢」を書いてみます。

一時期、東京と大阪に挟まれて日本の第三の都市でありながら「名古屋ざらい」ということが言われましたが、なぜなのでしょう？

しかし考えてみれば、「好き嫌い」は表裏一体で、どちらもが特徴であり、自慢だと思います。

- ① 名古屋ざらいのルーツはタモリが面白おかしく「東京と大阪」へのコンプレックス、名古屋弁の響きの汚さを揶揄したことから始まりました。そのためタモリが売り出した当時は「タモリ嫌い」な私でしたが、その後時間経過して大好きになりました。

私は名古屋人なのかな？

- ② 実際にニッセイ基礎研究所の「魅力のない街・二度と再訪したくない街」というアンケートでは堂々の第一位に輝いているのです。
- ③ 名古屋人は見栄っ張りで結婚式や葬儀を派手にしたがる。引き出物は重い・かさばる・豪華を最上としますと言われています。
- ④ 名古屋人は他の色に染まらない。それもまた嫌われる理由らしい。
- ⑤ 「名古屋飛ばし」という新幹線での、のぞみ号の一番列車で名古屋駅に停車しない事は、すごく名古屋人にショックが有った。これも他地域には奇異に感じた。
- ⑥ 名古屋出身の天下人三英傑（信長、秀吉、家康）は日本の礎である。安定政権だった江戸時代を作ったのは、愛知県出身者の時代でした。これは自慢かも？
- ⑦ 名古屋式三段値切り。ビジネスでは見積もりで値切り、納品で値切り、振り込みで値切る三段値切りが有る。（自分的には今はないと思いますが・・・）
- ⑧ ひつまぶし、コメダ珈琲の小倉トーストとモーニング、手羽先、ワラジとんかつと味噌カツ、どて煮、カレーうどん、味噌煮込みうどん、天むす、あんかけスパ、台湾ラーメン、寿がきやのラーメンなどのB級グルメばかりが有名。
- ⑨ 名古屋人氣質は何でも「いかん」という否定から入り、けなしてしまう。

話は違いますが、尾張地区への朝廷の影響力は木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川の辺りまでしか影響力が無かったので、ここに国府・尾張国分寺・国府宮・甚目寺観音（日本最古の観音様ともいわれている）を築き統治していた。

本来、名古屋は海上交通の要衝であったが、有力豪族の尾張氏が朝廷の侵略を阻んでいた。

しかしこの地区は頻繁に大洪水に見舞われていたので、「輪中（わじゅう）」といわれた村落の集落に土塁をめぐらした。さらに「水屋（みずや）」という石積みの高い小屋を設けて洪水に備えた。こうゆう施設は今でも健在です。

また地震の時は水分の多い土壌のため、液状化現象がおきていてその対策上で遷府を迫られていて徳川幕府は実行いたしました。

しかし一番の理由は徳川幕府が天下を統一してこの地区を東西の要にするためと、豊臣系の大名（外様大名）の財力と戦力の衰退を狙って築城工事をさせる目的で、徳川幕府は尾張の中心部を清洲から那古野（なごの・なごや・名古屋）に遷府する、いわゆる「清洲越し」が行われた。勿論目玉事業は名古屋城の築城工事であった。ただ新しい政庁ができるというだけではない。それまで清洲にあった寺社や商家、住民、地名までもが名古屋に移され、新しい城下町が形成されたのである。まさに清洲という町ごと名古屋に移転させる一大事業で、人口六万人を超える有数の城下町だった清洲は、跡形もなくなったと言われています。名古屋城は築城技術で有名だった加藤清正が積み石でも活躍しました。

さて名古屋自慢というと、下記のようなことが思い浮かべられます。

1. 日本の礎となった天下人三人を生み出した土壌。

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という天下人を生み出した愛知県。徳川幕府は江戸に開かれたが、その源泉をたどると三河・尾張であり大いに自慢となります。毎年10月に開催される名古屋まつりは、三英傑をたたえる祭りです。

2. 岡崎の特産品「八丁味噌」は、三河・尾張武士の兵糧が起源だった。
今では「味噌かつ」や「味噌煮込みうどん」「どてに」などが有名ですが、この八丁味噌は戦時の兵糧として珍重され、武士は持ち歩き大豆のたんぱく質は戦勝に寄与したことでしょう。
3. 徳川御三家の筆頭として将軍は出せなかったが、世界に羽ばたくトヨタの技術革新で、またノリタケの陶磁器、三菱重工の国産ロケットなどで名古屋港の貿易黒字は毎年6兆円もある。
4. 名古屋の道路は京都と同じく碁盤の目状に整備されている。

徳川家康は「清洲越し」の折に、「碁盤割り」と呼ばれる格子状の直線道路を作っている。これは当時は道路が矩形や丁字路にして迷路のようにして敵の侵入に備えたが、幕府は名古屋の防衛に絶対の自信があったからだと言われています。

太平洋戦争で焼け野原となった名古屋に100メートル道路（若宮大通と久屋大通）を東西南北に各一本作り、市内を四分割して火災からの延焼に備えるためと車社会到来を見越した復興計画を半年で作り実行しました。

5. 名古屋は寒冷地でもないのにアイススケート王国です。
女子は特に、伊藤みどり初め、浅田真央・鈴木明子・村上佳菜子などを輩出しているのは指導者に恵まれ、通年利用できるスケート場が九か所あります。
6. 名古屋の喫茶店「コメダ珈琲」のコーヒーは一杯¥400なのに、少し大きめのカップにタププリ入っていて、時間が長めの商談を進めるにはちょうど良い量になっている。なおLサイズの物は¥500で長時間居座るには良い量となっている。（写真①）
近頃は首都圏にも進出して話題を呼んでいます。



写真①（コメダ珈琲のRサイズとLサイズ）

8. 立派な能楽堂は名古屋城の中にもありますが、個人でも能楽ホールを運営しています。
こうゆう能楽鑑賞だけでなく、狂言・落語・講談なども秘かに盛んです。
是非皆様方も時間を見つけて鑑賞してください。新しい発見があります。

名古屋市やNPO法人が運営する「やっとかめ文化祭実行委員会」は、伝統文化の普及にも努めています。

9. 県立美術館・市立博物館も有るが、意外と松坂屋百貨店のミニ美術館「松坂屋美術館」も、こぢんまりとまとまって、見ごたえも有る展示が多いです。絵画・彫刻・陶磁器・書道などジャンル別、テーマ別に分けて日常的に開催・展示してくれますので、楽しめます。デパートでの美術鑑賞は、服装もそれに合うおしゃれをして行くので気分が良く楽しいですよ。大切な美術品を保護するマナーはきっちり



写真②（松坂屋美術館の最近の入場券）

守って鑑賞しています。

是非一度足を運んでください。(写真②)

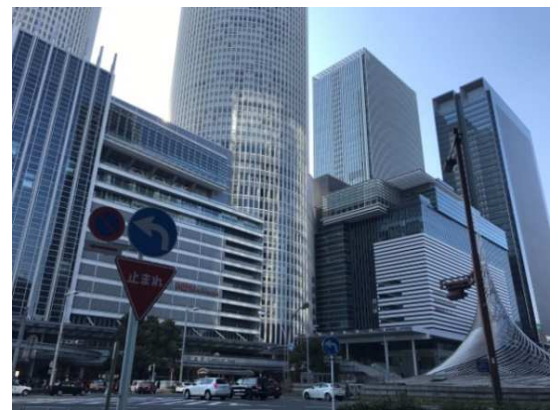
10. 名古屋は道路の真ん中をバスレーンが走っています。バスレーンは中央緑地帯が無いようにして道路の真ん中を走っています。都市高速道路の橋脚の下は走行できないが、高速道路が無い場合は昔の市電の様にバス停の島を作り、バス優先でスイスイ走行しています。(写真③)

リニアモーターによる「リニモ」は愛知万博の会場向けに完成し今も走行しています。また線路上を走るバスの「ガイドウェイバス」も特徴ある乗り物です。線路と一般道を走行する「ゆとりーとライン」のバスがそれです。



写真③ (道路の真ん中のバスレーン)

11. 名古屋駅前には近代的なビル群が立ち並び、ここ数年前からビルの改築・新築ラッシュで新しく名古屋進出のテナントも多くて購買意欲が高まっている。名古屋駅前がこの地区では一人勝ちである。(写真④)
12. 名古屋の宮内庁の勅使も来る熱田神宮は三種の神器のうち「草薙の剣」で有名ですが、神社裏には湧水が出ていて、この湧水は楊貴妃になったという伝説で、眼と肌に良い「清水社の湧水」と言われて、有名です。この水も一度は試してください。(写真⑤⑥)



写真④ (名古屋駅前のビル群)



写真⑤ (熱田神宮のこころの小径案内板)



写真⑥ (熱田神宮の清水社の湧水)

13. 今年話題になりましたレゴランドが開園しました。再度訪問したくない都市に選ばれた名古屋市ですが、この4月1日に待望のテーマパーク「レゴランド」が開園しました。名古屋港の金城ふ頭に家族で一日楽しめる所となる事でしょう。
14. 名古屋発祥「パチンコ」を考案したのは正村竹一のアイディアであった。今や日本だけしかなくて、国民的娯楽として定着している「パチンコ」ですが、名古屋はベニヤ合板の集積地だったことと、正村が大工や指物師としての器用さで釘の「正村ゲージ」が誕生し、台の上部中央に配置された四本の「天釘」や下部の入賞口に玉を誘導する「ハカマ」という釘の配置をし、玉の流れを変えスピード感をもたらす「風車」をつくる等様々な工夫をして大人の娯楽になりました。

15. 若宮神社の若宮祭り（5月15日）と「名古屋まつり」（10月中旬）協賛の山車曳きも車道を練り歩き

途中の何か所かでは、からくり人形を演じます。江戸時代から続いていて、お囃子、山車のコントロールをする



写真⑦（名古屋祭り）



写真⑧（名古屋祭り）

かじ方、町内会の引手、からくり人形操作など、協力して伝統文化を受け継いでいます。（写真⑦⑧）

16. 名古屋の栄・錦は昼夜を問わず一大繁華街ですがここに金ピカに塗装された第七代藩主徳川宗春像が乗っているポストがあります。（写真⑨）



写真⑨（宗春像が乗った金ぴかのポスト）

17. 最後に計画ですが名古屋弁の名物市長の河村名古屋市長が十年以上かけて名古屋城本丸御殿を建造時のままの木造での復元計画が有ります。完成を楽しみにしています。取りとめのない名古屋自慢になりましたが、お許しください。

《編集の小窓》

筆者がウォーキングの途中で春から秋にかけて目を癒やしてくれる草花の中で、待宵草（マツヨイグサ）が一番気に入った花の一つです。待宵草と月見草は、同じマツヨイグサ属で混同されますが、待宵草の花は、黄色 月見草は、白の花を咲かせ別のものです。

本来、月見草は、山野に自生しますが、最近では、余り見る事が出来なくなり待宵草を月見草と呼んでいます、夕暮れを待つ咲き萎むとオレンジ色になります。

待宵草の伝来は二種類有ると言われ、嘉永4年に渡来された待宵草は、チリ原産、明治時代に伝来した待宵草は、北米原産で大待宵草と言われています。

よく知られている、竹久夢二のメロディー「待てど 暮らせど 来ぬ人を 宵待草の やるせなさ」を思いおこします。

名前の由来は、夕方を待つ咲き始めるので待宵草となったと言われています。

花言葉は、ほのかな恋・移り気・静かな恋 和・協調などです。

花の特徴は、



2017年4月25日：6時23分撮影

アカバナ科 マツヨイグサ属 越年草 多年草

別名・・・・・・ ヨイマチグサ（宵待草）

開花期・・・・・・5月～9月

原産地・・・・・・南アメリカ原産

花色・・・・・・黄色

葉の形状・・倒披針形

草丈・・・・・・50cm～1m

花持ち・・・・・・1日程度

日々の生活で、一輪の花の美しさを楽しめることは、無情の楽しみの一つであり、花言葉は心のゆとりを持たせるとともにノスタルジアも感じさせます。会員の皆様も居住する地域で季節の花を楽しんでみては如何でしょうか。

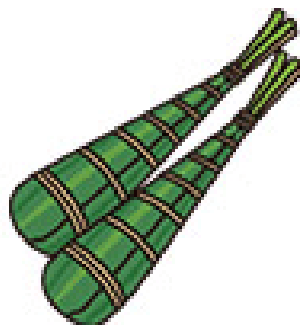
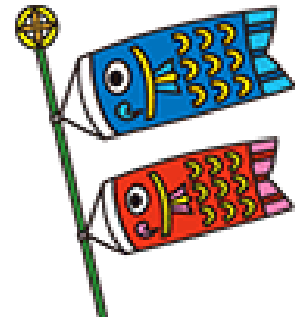
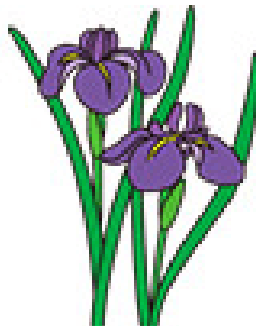


2017年4月25日：6時25分撮影

森 克彦.記

☆☆☆☆ 第50号記念誌：原稿募集のご案内 ☆☆☆☆

情報誌も平成13年9月20日に、創刊号を発刊して以来、16年余りが経過し、平成30年1月15日（発刊予定）に第50号発刊の節目を迎えるにあたり、記念号として鋭意準備をしておりますので、会員の皆様には、是非とも FAR 会情報誌への思い出・希望等を纏めて戴き応募して戴きますようお願い申し上げます。応募の詳細に就きましては、次号（情報誌第49号）にて、ご案内致しますので応募方宜しくお願い致します。



FAR 情報誌 No.48（非売品）

発行日 平成29年5月15日

発行者 川上壽昭

編集委員会 森 克彦（委員長）

石井 勉 江島光弘

橋本廣信

山田和美（顧問）

森：連絡先 Tel&Fax. 049-225-2619

Email:mokamokawh@gmail.com